

第10回（仮称）新武蔵野クリーンセンター施設まちづくり検討委員会

議事要録

日 時 平成 21 年 3 月 10 日（火）18：30～21：05

場 所 クリーンセンター 3 階 見学者ホール

出 席 寄本勝美委員長、田村和寿副委員長、早川峻委員、越智征夫委員、石黒愛子委員、広江詮委員、橘弘之委員、佐々木保英委員、村井寿夫委員、前川智之委員、井上良一委員、事務局（環境生活部環境政策担当部長、クリーンセンター所長他）傍聴 9 名

1. 柳泉園組合視察の報告

事務局 : 委員長より地域還元施設の視察候補としてグランドパーク（柳泉園組合）の推薦があった。

委員 : クリーンポート（柳泉園組合のごみ処理施設）になる前にも行ったことがあるがだだっ広いところにポツンとある施設だった。武蔵野クリーンセンターがコンパクトであるのに対し、見学者通路等広々してゆったりとした造りになっている。似ているところとして野球場やテニスコートがあるが、浴場や温水プールもついている。迷惑施設としてではなく親しみのわく施設にしなければ簡単にここに造っていいとはならないという感想をもった。

委員 : グランドパーク（柳泉園組合の厚生施設）というのがあって、利用券が配られるが、年に一回分だけ。普段は利用料が 400 円で、割と高い。なぜ安くしないのか聞くと、他の民業の圧迫をしてしまうというのが理由であった。周辺住民への還元という意味ではちょっと違う気がした。9 万 5 千平米の土地があり、いろんなことが出来る。

委員 : 組合運営で経営という言葉を盛んに使っていた。3 市で成り立っており、ごみの収集等若干差異がある。リサイクル品の引き取り料金の変動、風呂等あることでの細かいクレームといった問題があり体制の構築が難しい。武蔵野に置き換えると、体育館に温水プールがあるとか、野球場もある。ないのは風呂だがこれの経営はいろいろ考えなければならない。野球場などを管理しているスポーツ事業団との連携を密接に図っていく必要がある。いい物をつくっていくためには場所が足りなくなるため、ここの話合いが重要。

委員 : リサイクルセンターが見られなかったのが、見たかった。見学者通路を幅広く取っている。武蔵野の場合にあれだけのものを取れるのかというと難しいが、見学者ルートについては設計の段階から強く認識しておかねばならないと認識した。能力的には倍程度あるが、なかなか売電は出来ていない。武蔵

野の規模で売電まで果たしてできるのか。グランドパークは一方は工場で、一方はスポーツ施設となっており、両立は難しい。風呂も含めて、余り足を突っ込まない方がいい。スポーツ事業団は既得権益があり、既にあるものを崩していかなばならないためその面が大変と感じた。

- 委員 : 売電量が出ているがこれは計画の数字なのか。
- 委員 : リサイクルセンターには3市とも資源を持ち込んでいるのか。
- 委員 : 3市で運営している。独立採算でやっている。
- 委員 : プラスチックを固形燃料にして売ったりしている。
- 事務局 : 古紙をストックヤードに集めてそこで入札して売り払っている。古紙価格が下がっており苦しいところはあるかと思う。
- 事務局 : 議会の厚生委員会で説明したペーパーをお配りしている。あり方はかなり固まってきたが、まだ2つ議題が残っており、中間のまとめ、パブリックコメントを経て6月に最終報告をまとめていただくスケジュールで延長をお願いしたい。

2. 「中間のまとめ(案)」の検討

副委員長 : 中間のまとめを説明いただきたい。

事務局より「中間のまとめ(案)」の説明。

- 副委員長 : さまざまな疑問にちゃんと答えられているか、新施設のイメージ、コンセプト。このまちの将来の施設像として説得力を持つものであるか。確度・誤差がどの程度のものか。
- 委員 : 建て替えの妥当性の中で、一組のレポートを読み返して腑に落ちないところがある。優位性が確認できなければ実施しないとしている。今の場所で器をそのままプラント更新して地元は満足するのか。一組は施設が大きいので自由度が違う。このコストのグラフに規模やメーカーを入れていくと違うものが見えてくる。設計金額と入札金額が違う。武蔵野でやる中での問題をもう少し入れるべき。4年間でごみの外部処理の委託費がどの程度になるとか。結論としては変わらないと思うが。
- 事務局 : 物理的にRC(鉄筋コンクリート造)の縦方向の増築が困難というのが一番大きい。武蔵野より余裕のある中でも厳しいというレポートになっている。
- 委員 : 市の事情を先に出した方がいい。武蔵野は大きさが小さい中でどんな問題があるのか。
- 委員 : 16ページの施設の面積の一覧があるが、管理スペースとプラントが一体とな

っているとか、施設によっていろいろあるはず。一概に比較できない。条件を何と何にすればいいとか細かい設定が必要になり、かなり厳しい。委託費は小金井市の例で、1万9千トンで6億円、翌年12億円になっている。まず受けるところがあるかも難しい。そういった周辺状況を考えてここを動かしながらつくるのがいいのかなと思う。

委員 : コストの話を現時点では詳細にする必要は無く、大まかで良いと思う。23区の事情を武蔵野にスライドさせるのはなかなか大変かと思う。あくまで参考資料。この場で議論してきた中で、コストは補助的な議論。まとめ資料でそのままボンといきなり出てくるのはどうかと思う。施設の大きさとか武蔵野らしさみたいなのところをベースに持っていきたい。建屋の大きさの資料があるが、10ページのまとめで「(処理方式について)必要に応じて代替方法への切り替えが選択可能な余裕のある施設配置」という話があるが、これまでそういった話はしていない。それがあってもかかわらず面積のところには余裕が取られていない。

事務局 : 再検討させていただく。

委員 : 近年、BCP(ビジネスコミュニティプラン:事業継続計画)という考え方が出てきているが、事業の継続・安定性みたいなところで、予期せぬ災害等起きた時のどういう対応するというのはこういった施設にあてはまらないのか。危機管理みたいなことを考えているか。

事務局 : 事故時は安全に停止する必要があり非常用発電を備えている。耐震は現施設では新耐震基準は満足しているが、新施設では安全係数を使用する。また、実際に災害があった時には、広域支援システムの中で相互協力していくことになると思われる。

委員 : 23ページ、運営協議会への誠意を表してもらっているかと思う。しかし、現在の運営協議会は周辺3団体で構成されているが、今後は市民の皆さんにいろんな地域から協議会のメンバーを出してもらいたい。そうするとかなり開かれた協議会になる。

委員 : クリーンむさしのを推進する会などとの関係はないのか。

委員 : クリーンは施設のことにはあまり関わらない。兼任される方はいるが直接の関係はない。事故時、コンピュータの電気等は2系統で設けられているので、安全に停止できる。剪定枝は樹の種類によりダメなものがあるという話であったが。

委員 : 枝はなかなか分解しないので時間はかかる。時間はかかるが、樹の種類で特に問題があるというのではない。

委員 : 10ページの生ごみとか剪定枝のところ、この前小諸市からたくさんの方が来られて、生ごみ資源化はやっているが、他のごみの処理方式は焼却という

話だった。

事務局 : 小諸市から 60 人ほど来られた。民間で処理しており、老朽化で量を受けられない状況。人口 4 万人くらいで生ごみは資源化処理しており、それ以外を焼却するのでかなりのカロリーがある。資料をいただいているのでまたお配りする。

委員 : 20 ページの用地のところ。交通量と接道条件とあるが、18 ページの道路幅員との関係はどうなっているか。現クリーンセンターについて書いているが、現在地に来ると言っているように見える。5 番（交通量と接道条件）については参考資料でいいのか。

事務局 : ケーススタディで出しているので余裕を見ている。

委員 : 今後の検討の基礎になるため根拠が必要。

委員 : 現施設の車両の数があるが、処分場に行く 10 トン車が抜けている。この車両の仕様で幅がどのくらいになるというのがあって、ごみの量と車の量から道路の幅が決まってくる。資料編の 5 ページにあるまとめというのは本編に出てくるべきでは。

委員 : 法的な面で決まってくるのではないか。

副委員長 : ミニマムでとるべきか、余裕が必要か、難しいところ。

委員 : 最低限の敷地を拾っても仕方がない。

委員 : 設定の根拠をしっかりとっておけば、他の要因で修正を加える時に検討が容易になる。

副委員長 : 場所の提言が出来れば。

委員 : ソフト面のところで、23 ページ。チェック&フィードバックというのが出てくるが、北清掃工場に行ったときに、環境報告書があり、ISO14001 の環境マネジメントシステムの認証を得ている。北工場は工場としており、環境目標を設定している。地区住民との協定を遵守とある。是非武蔵野でもやるべき。武蔵野の場合、市全体で取っており全体を網羅しているため具体的でない。新施設で ISO14001 を取るくらいの心構えをして欲しい。PDCA とか書いているが、実際に行われることを確認するため ISO を入れればチェックできる。27 ページ、環境負荷について工場内での取り組みはあるが、ごみ収集車の関係、エコカーを導入すると入れて欲しい。

副委員長 : 市民にどう伝えていくかということも含め、どう思うか。重大性、緊張感がどうすれば伝わるか。

委員 : 厚生委員会を傍聴したが議員も場所がどこというのが一番気になっている。想像と違うところがパブリックコメントで出たらどうするかという質問があった。本当は 3 . 4 ヘクタールの中で作るはずが、体育協会の力が強くて押し込まれて現施設用地になっている。柳泉園組合を見て、もう少しゆとり

があるほうが安心感があると感じた。林もあり公園のようになっていて、団地が近くにあるが緩衝される。このまま場所がないままだとどうなるかという心配がある。

副委員長 : どんな場所でも安全安心ということで話を進めてきたが、こういうものを出す時には前文が必要。中間のまとめをなぜ出すのかという話をしっかり出すべき。その中で諮問事項の場所がどこになるかが一番の関心があるところ。客観的に比較しても、目くらましにしかならない。それであれば、この場所でこういう施設を造るというのを出すべき。場所とまちづくりをどう持って行くか、ご意見をお聞きしたい。

委員 : 場所の問題は非常に重苦しいところだが、現施設がここに設定された時の経緯をもう一度振り返る形で、ハード面では技術の進歩でクリアできる問題があるが、ソフト面では苦渋の選択をした時の市との約束条件を振り返るべき。給湯は約束していたが、いろいろな問題で出来なかったであるとか。スポーツ施設は本当に地元のためになっているのか。

委員 : 用地も含めどういう施設がいいのかというのを検討するのが委員会の役割。決めるとは書いていない。市民にそのような権限はない。具体的にどこの場所と提言することは考えるものと思っていなかった。

副委員長 : 政策的な話になるので、どういう用地があるというのは出来る話だと思っていない。今の場所を捨てることが出来るのかというだけの話とと思っている。公園の土地など出してきて比較することに意味はないと思っている。こういう議論が出来るのは運営協議会があったから。そういうソフトを新しい場所にもって行ってどう継承できるのか。それを評価すればするほど、ここが一番継承できる土地という矛盾に突き当たる。

委員 : アウトプットは、ここかどこかかということであればやり方も違ってくる。どういう施設が必要か決まってくれば、どういう場所の決め方になるか見えてくるということだった。あり方はある程度出てきており、次のステップに進めていきたい。

委員 : 委員会で何をするかで、場所を決めるものだと聞いていた。何を造るか決まらなければ場所は決まらない。そういう流れで来ていると感じていた。まちづくりは環境づくり。

副委員長 : そのためには場所がある程度イメージできなければ。

委員 : 場所は諮問事項に入っている。決定権はないが、こういう施設にして、これくらいの環境のものが欲しいという提言はしなければならぬ。ハードはかなり詰められてきた。スポーツ施設が地域のためになっていないなどを踏まえ、3・4ヘクタール全体を捉えて新施設を造っていくことを考えるべき。板橋で花見が出来るといったような公園の中の施設というイメージ。体育協

会は相当抵抗するであろうが、スポーツ施設は効率が悪く、自己満足で地域の利用がないのでは考えねば。公園を増やせば皆さんが使える。風呂場を造るようなことはやめたほうがいい。メンテナンスなりランニングコストがかかるものは作るべきでない。箱物を作るのではなく固定資産税を安くすればいい。

副委員長 : 緑町コミセンを見ても貧相な施設。300メートル圏内の整備を考えるべき。市民参加は権限がないのだから、そういうものをひっくり返すのが必要。

委員長 : ストックホルム大学にごみで出来た山がある。奈良の若草山のような山。不法投棄で処理するのに1800億円かかるので接着剤で固めている。

副委員長 : セっかく市民参加なのだから、何か一つ打開して大きく変わっていくものを含めていくべき。なかなか代替できるものではなく、少しでもプラスの施設としなければならない。

委員 : 議論されている趣旨はよくわかる。現施設は環境面での問題はないが、交通面で収集車の負担がある。これを皆さんに認識してもらうにはどういう方法があるか。他所に持っていけばお金はかかるかもしれないが、全てここでやろうとしている。そういう面も含めて。

副委員長 : 早晚非焼却に行くべきだと思うが、安定的なものも最小限で必要。当事者はノーと言う権利はあるわけだから、徹底して議論していかねば。

委員 : 現実的な土地の選択をするということ自体はいいが、作業部会の中で必要面積を満たす場所をリストアップはしている。その場所がどこかということは置いておいて、公園には出来ないし、公有地の中で学校も含め、思いつく場所はない。品目によって分散させて、小さくしていくことは出来るのでは。

委員 : 市の中で課を越えてやってほしい。ごみ総合対策課は一生懸命やっているが他の担当課では意識が薄れる。全市が協働していくためには市の取り組み。事業者の減量についても、もう少し目標として書き込んで欲しい。消費者とずれがある部分もある。

委員 : 今言われたようなことをごみ総合対策課で一生懸命やっている。大口の事業者はいろいろやっているが、中小事業所が5千から7千ある。これを今チェックしていつている。

副委員長 : 環境とかごみとかは、総合行政でやっていかねば出来ない。

委員長 : 長崎に山本さんという方がおり、鯛の養殖場に生ごみを捨てている。水質検査をするが問題ない。立派な施設もいいが人間の手を入れなければ。

副委員長 : 場所をどういう風に考えるのか。そこをはさんで付加価値をどうつけていくのか。この話を次回。まとめは編集方針がありましたら事務局に。

了 (午後9時5分)